

安城の歴史を現代に伝える情報誌

れきしみち

2. 特別展「陰陽師 安倍晴明」
4. 特別展「発掘された日本列島 2017」
6. 連載「懐かしの写真 昔ものがたり」
7. 安祥文化のさとではたらく人たち、昭和の名作シネマ
8. 安城市歴史博物館行事紹介、市民ギャラリーよりお知らせ

2017.10
No.106



特集：①陰陽師 安倍晴明 ②発掘された日本列島 2017

写真右上：安倍晴明公肖像画（晴明神社蔵）

写真中央：人面壺形文土器（安城市歴史博物館蔵）



写真：安城町鳥瞰図『産業の安城』（昭和15年刊）より



れきしみち No.106 平成29年10月発行 編集・発行 安城市歴史博物館

（指定管理者：安祥文化のさと地域運営共同体）

安城市歴史博物館 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀 30 番地 TEL 0566-77-6655

安祥文化のさとまつり

第12回

芸術活動や歴史研究発表など、歴史と文化をテーマとしたお祭りを開催。盛りだくさんの催しを企画中！ぜひ遊びにきてください。

- ・石舞台でのステージ公演
- ・さとマルシェ
- ・しろあと茶屋
- ・歴史のひろば展表彰式
- ・「秋を書く」書の実演
- ・野点茶会
- ほか飲食販売

開催日時
平成29年 10月7日(土) 8日(日) 9:00～16:00
※体験イベント、飲食コーナーは10:00スタート

場所
安祥文化のさと
(歴史博物館・市民ギャラリー・埋蔵文化財センター・安祥公民館・安祥城址公園)

見る学ぶ遊ぶ！

安城市歴史博物館の10月～12月のイベント

歴博演芸場

●懐かしの“車” 写生大会&写真撮影会

懐かしの車を公園内に展示。車の写生大会や写真撮影会をおこないます。写生作品や写真作品はギャラリーにて展示します。
〔日時〕11月4日(土) 10:00～15:00
〔場所〕安祥城址公園
〔対象〕写生…小学生以下
写真…どなたでも
〔申込〕当日受付



体験講座

●本格的なくみひも体験！オリジナル小物づくり

本格的なくみひもの編み方を学び、オリジナルの小物を作ります。
〔日時〕10月21日(土) 10:00～15:00
〔定員〕10名(先着順) (参加費) 1,500円
〔場所〕歴史博物館 体験学習室
〔申込〕10月5日(木) 9:00～

●ロープワーク体験～暮らしに活かす先人の知恵～

暮らしに役立つロープワークを学びます。
〔日時〕11月18日(土) 10:00～12:00
〔定員〕15名(先着順) (参加費) 200円
〔場所〕安祥城址公園
〔申込〕11月5日(日) 9:00～

●ミニはにわづくり体験～成形から焼成まで～

はにわの指人形を作りましょう。七輪で焼成にも挑戦します。
〔日時〕12月17日(日) 10:00～15:30
〔定員〕12名(先着順)
〔対象〕小学3年生以上
〔参加費〕800円
〔場所〕市民ギャラリー創作実習室
〔申込〕11月19日(日) 9:00～

申込・問合せ

安城市歴史博物館 ☎0566-77-6655
体験講座は電話にて受付を行います。各講座の申込開始日を確認の上お申し込み下さい。

安城市民ギャラリーよりお知らせ

企画展

「心が見た風景 - 心に残る風景、心に描く風景 -」



久野和洋《地の風景・陽の入り刻》

「心に残る風景、心に描く風景」をテーマに、市民ギャラリーコレクションの中から選りすぐった作品と、市内小中学校29校から寄せられた作品を紹介します。

〔開催期間〕9/29(金)～10/8(日)
〔時間〕9:00～17:00(最終日は～16:00)
〔休館日〕10/2(月)

第74回 安美展



第73回安美展 グリーンボン賞受賞作品
洋画部門(アクリル画) 伊藤文夫《柱れ木も山の賑い》

安美展は安城市唯一の公式の公募型美術作品展覧会で、市内にとどまらず、広く全国から募った美術作品を展示します。

〔前期〕日本画、工芸、彫塑 10/20(金)～10/29(日)
〔後期〕洋画、写真 11/3(金・祝)～11/12(日)
〔時間〕9:00～17:00
〔休館日〕10/23(月)、11/6(月)

安祥文化のさと

安祥文化のさととは安城市にある松平氏四代 50年の居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

〔全館共通事項〕
住所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀 30 番地
休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)
URL / <http://ansyobunka.jp/> 安城市歴史博物館

安城市歴史博物館 開館時間 / AM9:00～PM5:00
TEL: 0566-77-6655 FAX: 0566-77-6600
安城市民ギャラリー 開館時間 / AM9:00～PM5:00
TEL: 0566-77-6853 FAX: 0566-77-4491
安城市埋蔵文化財センター 開館時間 / AM9:00～PM5:00
TEL: 0566-77-4477 FAX: 0566-77-6600
安祥公民館 開館時間 / AM9:00～PM9:00
TEL: 0566-77-5070 FAX: 0566-77-6062
安祥城址公園 TEL: 0566-71-2244



特別展

陰陽師



安倍晴明



平成29年
9月23日 [土]
-11月5日 [日]

【観覧料】300円 (中学生以下無料)

文責：田中里張



万歳は江戸時代、正月の代表的な祝福芸の一つです。特に安城ゆかりの三河万歳は、関東に檀那場を持つていたことから、江戸ではよく知られた存在でした。この三河万歳は、天和三年（一六八三）以降、陰陽師を統括する土御門家の支配下に入って活動することになります。

土御門家は、平安時代に活躍した陰陽師安倍晴明の嫡流です。晴明は、彼の活躍した時代から千年経った現在でも様々な術を用い、式神を自在に操る類まれな術師として映画や漫画などに登場し、人気を博しています。しかし、晴明と同時代を生きた人々の記録からうかがえるのは、現在の私達が抱く超人的なイメージとは異なり、朝廷や天皇・貴族のために、怪異現象の卜占や行事の日時・方角の選定、祓や祭祀などを粛々と行う晴明の姿です。

今回の展覧会では、晴明の実像に迫るとともに、晴明の没後に形作られた、稀代の陰陽師としてのイメージ形成の過程を追います。また、晴明以後の安倍家・土御門家の変遷と三河万歳との関わりを史料から紹介します。



大將軍神半跏像 奈良国立博物館蔵
方位を司る曆神。大將軍神が所在する方位は凶とされた。

陰陽道は、中国で発生した陰陽五行思想を基本に、道教や密教、神道や日本古来の自然観などが混ざり合っており、日本で成立したと考えられています。陰陽道の担い手である陰陽師は、奈良時代に整備された律令において、中務省内に設けられた官庁の一つ「陰陽寮」に所属する技官の官職名でした。その役割は「占筮（吉凶を占う）」、「相地（地の良し悪しをみる）」とされ、主に国家に関する大事に対し、予兆や原因を占うことを職務とする、占術技能者だったのです。

しかし平安時代になると、占いだけでなく、異常気象や災害、怪異現象が起こった時の対処も任されるようになります。当時、こうした現象は神・怨霊の祟りと考えられ、これを鎮めるのは僧侶や神祇官の役目でした。こうした中で、平安

晴明像が形成されていたことがわかります。続く鎌倉時代でも、道長にかけられた呪詛を破り、呪詛した者を特定する話などが『宇治拾遺物語』に記されています。そのほかにも数多くの説話集で晴明の能力が語られ、「安倍晴明」が優れた陰陽師の代名詞になっています。

さらには、晴明の母が神狐であり、晴明の能力は神狐から受け継いだものという「晴明」化身者説が生まれ、江戸時代にはこうした晴明の伝説がまとめられた『安倍晴明物語』が刊行されます。晴明の物語は歌舞伎や浄瑠璃の題材として採用され、陰陽道に関わらない多くの人々にも「稀代の陰陽師 安倍晴明」の名が知られるようになるのです。



御堂関白記(自筆本) 長保二年巻上 陽明文庫蔵
藤原道長の日記原本。道長が娘彰子の立后に際して日時を選んで奏上するよう命じたことが記されている。

★稀代の陰陽師 安倍晴明

晴明が亡くなったとされる寛弘二年（一〇〇五）から約百年後、平安時代末期に編纂された説話集『今昔物語集』には、晴明の話が掲載されています。そこでは、晴明は式神を自在に操る、卓越した能力を持つ陰陽師として語られています。しかし同時代の諸記録からは、晴明が式神を操る場面は確認できず、すでに実物とは離れた



宇治拾遺物語14巻
「御堂関白の御大晴明等奇特の事」
西尾市岩瀬文庫蔵

★安倍から土御門へ

一二世紀末に鎌倉幕府が成立すると、晴明の子孫である安倍氏の陰陽師たちは、朝廷や天皇家のために奉仕する一方で、幕府や將軍家のためにも祭祀等を行うようになります。朝廷と武家政権双方に仕えるスタイルは、次の室町時代も同様です。特に三代將軍足利義満は安倍・賀茂両家の陰陽師を重用し、安倍有世は晴明の従四位下を超える従二位の公卿にまで昇進しました。この頃から、安倍氏嫡流は土御門

時代の陰陽師たちは多様な陰陽道独自の祭祀を生み出していきました。同時に、災いを避けるために日時や方位をはじめとする様々な禁忌が生み出され、朝廷における儀式や貴族たちの生活に大きな影響を与えることになるのです。

★天文博士 安倍晴明

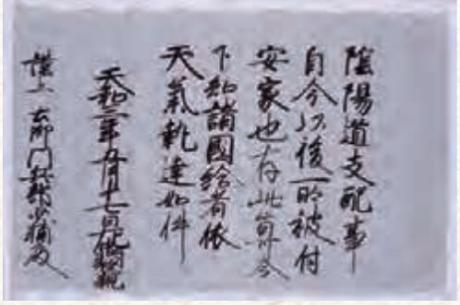
安倍晴明の名が史料上で最初に確認できるのは、天徳四年（九六〇）、晴明四〇歳の時です。この年、晴明は陰陽寮を構成する陰陽・天文・曆・漏刻の四分野のうち、天文分野の得業生・有能な学生を選抜して勉強のために衣服・食料を支給するものとして、内裏の火災で焼損した霊剣の鑄造に関わったことが記録されています。そして天禄三年（九七二）、五二歳の時に天文博士として天文密奏（天変を密封した文書で奏上すること）を行っています。こうした晴明の職歴は、師とされる賀茂保憲が四〇歳代で陰陽寮の最高位である陰陽頭に任じられていることと比べると、かなり遅いといえます。

晴明の陰陽師としての活動は、貴族たちの日記等で確認することができます。その活動内容は、怪異や病の原因を占ったり、儀式や行事の吉日を選んで奏上するほか、祓や祭祀の執行などです。

家、賀茂氏嫡流は勘解由小路家を名乗るようになります。江戸時代においても土御門家（安倍家）は歴代將軍の宣旨の際に身固め（身を堅固にするための加持）や天曹地府祭を奉仕するなど、幕府とのつながりを持ちます。

こうした中で天和三年（一六八三）、朝廷・幕府双方から諸陰陽師の支配を認められると、陰陽師だけでなく民間の宗教者や芸能者をも配下におさめ、土御門家を頂点とした陰陽道組織が編成されていきます。三河万歳も土御門家配下の陰陽師として活動することになります。

この全国の陰陽師支配は、明治三年（一八七〇）に明治政府が天社神道（土御門家の陰陽道を指す）廃止を通達することで終わりを告げます。しかし「稀代の陰陽師」安倍晴明の名は物語や演劇により、民衆に知られるようになり、さらに民間の陰陽師たちの活動とともに地方にも伝わり、各地に「晴明ゆかりの地」が生み出されました。そして現在でも、小説や漫画などにより、新たな晴明像が生み出されているのです。



靈元天皇綸旨 天和三年 宮内庁書陵部蔵
土御門家に陰陽師の支配を認めた綸旨。

特別展関連行事

- 記念講演会
「安倍晴明の実像と伝承 — 歴史のなかの陰陽師 —」
[日時] 10月28日(土) 14時~
[場所] 歴史博物館 講座室
[講師] 斎藤英喜氏(佛教学大学教授)
- [定員] 80名
[申込] 不要
- 記念公演
「今に生きる三河万歳」
[日時] 9月23日(土) 10時~
[場所] 歴史博物館
エントランスホール
[出演] 安城の三河万歳保存会、安城東部小学校三河万歳部
[申込] 不要



- 歴博講座
「陰陽師支配下の三河万歳」
[日時] 9月30日(土) 14時~
[場所] 歴史博物館 講座室
[講師] 田中里張(本誌巻頭)
[申込] 不要
- 展示解説
[日時] 10月15日(日) 10月22日(日) 各日14時~
- [申込] 不要
- 体験講座
「本格的なくみひも体験& オリジナル小物づくり」
[日時] 10月21日(土) 10時~15時
[場所] 歴史博物館 体験学習室
- [講師] 大河内美津代氏 (くみひも工芸委員会代表)
- [定員] 10名
[料金] 1,500円
[その他] 昼食は各自にて(用意ください)。
- [申込] 10月5日(木) 9時よりお電話でお申し込み下さい。
- 体験講座申込先
0566-77-6655
(安城市歴史博物館)

発掘された日本列島 2017

日本では、毎年約8,000件の発掘調査が行われ、多くの調査成果が蓄積されています。文化庁では、埋蔵文化財の内容や保護について理解を深めることを目的として平成7年度から全国の博物館を巡回する「発掘された日本列島展」を開催しています。そして、今年度安城市歴史博物館では市制施行65周年を記念して特別展「発掘された日本列島 2017」を開催することとなりました。それでは、主な展示資料について紹介をしていきます。

文責：野上真由美

開催期間

平成29年 11月18日(土)~12月24日(日)

〔観覧料〕400円(中学生以下無料)



三彩瓦 (史跡唐招提寺旧境内)

新発見考古速報

山形県押出遺跡は、縄文時代前期後半の遺跡です。この遺跡では、赤と黒で彩色された漆塗り土器が見つかっています。上から見ると角丸方形で、口縁部には貫通孔が一周します。そして赤漆を全面に塗り、黒漆で渦巻きなどの緻密な文様を描いています。その形状の独自性、完形で出土した希少性からも一見の価値があります。

岡山県神明遺跡は、弥生時代から古墳時代の集落遺跡です。集落の最も標高の高い地点から銅鐸が埋納された状態で発見されました。銅鐸はつり手の形状や文様から弥生時代中期後半に作られたものと考えられます。集落の中から銅鐸が発見される例は少なく、謎多き銅鐸です。また、香川県天満・宮西遺跡からは、弥生時代後期の銅鐸片が見つかりました。この銅鐸片には鳥または鹿が鑄出されており、銅鐸文化の最後に作られた絵画銅鐸といえます。

宮城県入の沢遺跡は、古墳時代前期の遺跡です。平成二十六年の調査で丘陵上に、周囲を堀と大溝によって囲まれた防衛性の高い大規模な集落です。そのうち、火事で消失したと見られる竪穴建物の一棟から土器とともに、鏡や玉類、鉄製品、水銀朱など古墳の副葬品に匹敵する遺物が出土しました。この遺跡は、古墳時代前期の大型古墳の分布域の最北に位置し、北方に広がる縄文文化との境界に立地します。鏡など畿内の権力と関わる出土品から、拠点的な大規模集落であったと考えられます。



漆塗り土器(押出遺跡)

奈良県の唐招提寺は天平

宝字三年(七五九)に鑑

真によつて創建された

した。平成二十五〜二十七年度の旧境内の調査で、三色の釉薬を塗り分けた三彩瓦

が出土しました。三彩瓦は八世紀中葉から九世紀初頭のわずかな期間にのみ生産され、その分布も平城京、平安京には限られます。格式の高い瓦であり、国家によって生産が管理されていたと考えられることから唐招提寺と国家とのつながりを想定できます。

鹿兒島城は薩摩藩の本城であり、明治十年(一八七七)の西南戦争の舞台となりました。熊本・宮崎の戦いに敗れた西郷隆盛軍は城の背後にそびえる城山に布陣しました。明治政府軍は五万人の兵で取り囲み、無数の銃弾・砲弾を浴びせました。本丸の正面に置かれた御楼門の石垣を清掃したところ、無数の穴が見つかりました。いくつかの穴の中には銃弾・砲弾片が残っていて、政府軍の銃撃のすさまじさを伝えています。今回の展示では、御楼門で使用されたとみられる鬼瓦をはじめ、西南戦争で使用された銃弾・砲弾等を展示します。

この他にも、旧石器時代研究の礎を築いた長崎県百花台遺跡、飛鳥京跡苑池から出土した最古級の銃前である海老錠、東海地方屈指の山寺・豊橋市普門寺旧境内や、アイヌ民族の豊かな歴史と深い伝統文化を伝える北海道才・千ヶ浜遺跡など旧石器時代から現代まで全国一七の遺跡の資料を展示します。



銅鐸(神明遺跡)



ガラス小玉(入の沢遺跡)

特集1 復興のための文化力 東日本大震災の復興と埋蔵文化財の保護

平成二十三年三月に発生した東日本震災の復興と埋蔵文化財保護の両立を図るため、岩手・宮城・福島では急ピッチで発掘調査が行われてきました。復興事業に伴う発掘調査によつて多くの新発見があり、文化の復興も徐々に進んでいます。

岩手県高根遺跡は縄文時代中期の大規模な集落遺跡です。急峻な斜面に多くの貯蔵穴が発見され、大量の土器や石器、玉類、魚骨や貝殻などが出土しました。

また、平成二十八年に発生した熊本地震でも多くの文化財が被害を受けました。今回熊本県内の古墳の被害状況をパネルで速報展示します。



縄文土器 (高根遺跡)

特集2 発掘された水中遺跡

日本は周囲を海に囲まれており、海と共に歴史を歩んできたといつても過言ではありません。

長崎県史跡鷹島神崎遺跡は、二度の蒙古襲来のうち、弘安合戦(一一八二)に関する資料が見つかり、日本を代表する水中遺跡の一つです。この遺跡が平成二十四年に国史跡指定されたことを契機として、文化庁では水中遺跡保護の取り組みを本格化しました。そこで、今回は、日本各地で調査された七つの遺跡に焦点を当て、水中遺跡の世界の一端を紹介します。

滋賀県栗津湖底遺跡は琵琶湖の湖底に沈んだ縄文集落です。矢板で囲んだ調査区を設け、常時排水を行いながら調査を実施しました。

鹿兒島県倉木崎海底遺跡は、水深二〜四mの浅瀬から数多くの中国陶磁器がまとまって発見されました。調査は潜水で行われました。中国からの交易船が座礁した際に積荷を投げ捨てたものであると考えられています。

また、明治元年(一八六八)に北海道江差沖で沈没した旧幕府軍の軍艦・開陽丸から引き揚げられた銃や日本刀などの武器、乗組員の生活用品などの資料を展示します。



つば (史跡鷹島神崎遺跡)

旧石器から近代にかけて幅広く日本全国の発掘調査成果を一堂に展示するめったにない機会です。この機会にぜひ安城市歴史博物館へお越しください。

地域展「倭人発見!! 東海の人面文 安城の人面文」

安城市東町の亀塚遺跡で人面文壺形土器が出土してから今年で四〇年となります。昭和五十二年(一九七七)年亀塚遺跡第二次調査で発見された人面文土器は、精緻な表現、人面文部分の依存状態の良さから弥生時代の風俗を物語る貴重な資料であるとともに、弥生時代の人面文研究のきっかけとなり、平成二十八年に重要文化財に指定されました。

亀塚遺跡は、安城市域東部の鹿乗川、西鹿乗川周辺に位置する鹿乗川流域遺跡群のほぼ中央に位置します。この遺跡群は、弥生時代から古墳時代にかけての集落遺跡や古墳が密集していることから、三河を代表する拠点的な遺跡群の一つとされています。人面文土器を含めた線刻土器の発見数も周辺の地域と比較して群を抜いています。

今回、発掘された日本列島二〇一七の地域展として人面文壺形土器を中心に東海地方で出土した人面表現を紹介するとともに人面文のふるさと安城の鹿乗川流域遺跡群の出土遺物を展示します。



人面文壺形土器 (亀塚遺跡)

特別展開連行事

●記念講演会

「発掘された日本列島2017のみどころ」

〔日時〕11月19日(日)14時

〔場所〕歴史博物館 講座室

〔講師〕森先一貴氏

(文化庁文化財部記念物課)

「水中考古の世界を追う」

〔日時〕12月2日(土)14時

〔場所〕歴史博物館 講座室

〔講師〕中川永氏(豊橋市文化財センター)

●歴史講座

「東海の人面文と安城の人面文」

〔日時〕12月16日(土)14時

〔場所〕歴史博物館 講座室

〔講師〕野上真由美(本館学芸員)

●体験講座

「ミヒにわづくり体験」

「成形から焼成まで」

〔日時〕12月17日(日)

10時〜15時30分

〔場所〕市民ギャラリー 創作実習室

〔講師〕本田郁子氏(名古屋経営短期大学 子ども学科講師)

〔定員〕12名

〔対象〕小学3年生以上

〔料金〕800円

〔その他〕昼食は各自にて用意ください。

〔申込〕11月19日(日)9時より

体験講座申込先

0566-771604

(安城市歴史博物館)

市民ギャラリーの入口目の前にあるギャラリー受付。笑顔でお客様をお迎えし、案内をおこなうギャラリーの顔です。今回はギャラリー受付の仕事を紹介します。

安祥文化のよとで
はたらく
人たち
安城市民ギャラリー
「ギャラリー受付」

Q1 どのようなお仕事をしていますか？
展示室の利用受付と催し物や講座の案内や広報、お客様の問い合わせの対応をおこなっています。

Q2 お仕事のなかの魅力は？
お客様からお話を聞くことです。写真や絵画での展示室利用の際に、作品づくりの楽しさ、出展作品の解説、趣味のことなどを聞けることが楽しいです。大変な思いをして撮影した写真のエピソードや創作のロマンや苦労話などをお聞きすると、作品の奥深さを感じます。

Q3 仕事中心に心がけていることは？
笑顔です。展示室利用のお客様が気持ちよく利用して帰ってもらえるように心がけています。リピーターとして何度も利用いた



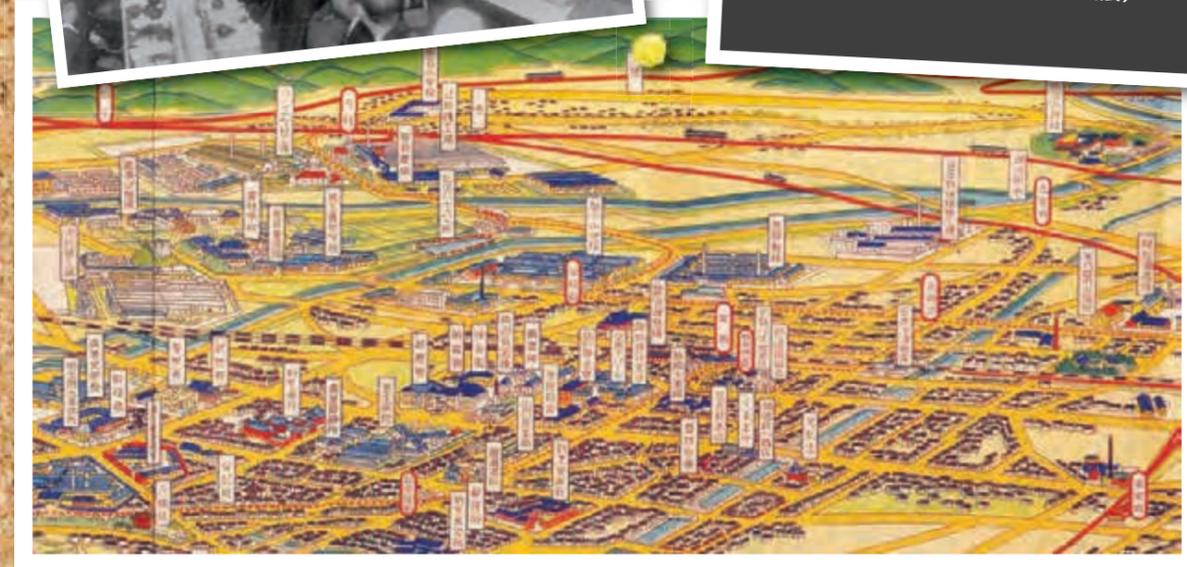
Q4 今後のおすすめの展覧会は？
ただのことともうれしいです。安美展です。いろいろなジャンルの作品が一度に見られるので見応えがあります。公募展なので、いろいろな味わいのある作品が揃っています。面白いです。

Q5 お客様へのメッセージは？
ご利用をお待ちしています。毎週ギャラリーの展示が替わるので、ぜひ何度も足を運んでいただきたいです。



辻紡績今村工場地鎮祭祝賀会[里町内会蔵]

第2回
懐かしの写真
昔ものがたり
文責：岩崎正樹(安城市歴史博物館 館長)



安城町鳥瞰図(一部)[安城市歴史博物館蔵『産業の安城』(昭和15年刊)より]

安城町では昭和初期から昭和十年代初頭まで、工場誘致が積極的に行われていた。工場建設が進んでいった様子がわかる、昭和十五年(一九四〇)作成の安城町鳥瞰図があります。上の図を見てください。このなかには、昭和初期に急増した工場のいくつかが描き込まれています。主だったものを拾ってみると、内外綿工場、辻紡績工場、ワシノ今村工場、日本特殊繊維工場、神杉酒造場などです。いずれも昭和初期から十五年くらいまでに造られたものです。

昭和に入ると世界恐慌の影響を受け、日本でも不景気の時代になりました。安城町でも主産業であった製糸関係の事業が衰退し、山丸製糸のように撤退してしまいう工場も出てきました。経済を立て直すために、新たな産業として、工場誘致を積極的に進めるようになり、最初に誘致に成功したのが内外綿株式会社と辻紡績株式会社です。工場用地の確保には多額の補助金を用意するなど便宜

を図りました。写真は、昭和九年(一九三四)に創業を開始した辻紡績今村工場地鎮祭祝賀会の写真です。たくさんの方が列席し、工場の誘致から工場建設につながったことを喜んでいました。紅白の幕が張られ、工場誘致に尽力した人の代表が祝辞でも述べているので、うかが、出席者がその話に聞き入っているのがわかります。机の上には、たくさん引き出物が並んでいます。この工場の建設に対する関係者の喜びが伝わってくるように感じます。

また、現在大東町に通称大池という池があります。これは内外綿の用地を造成するときに、土を入れるために掘られてできた池です。大池は、現在多くの人が釣りなどを楽しむなど憩いの場になっています。

このころ安城町は、工場誘致の努力もあり、工場数が増え、工場敷地面積は昭和十年(一九三五)ころには五〇から六〇程度だったものが、昭和十四年(一九三九)には三五〇程度まで増えました。産業構成にも変化をもたらした。業態別現住戸数は昭和十四年には農業戸数が五一%、つまり、二戸に一人は農業外で生計を立てるようになっていました。当然工業生産額にも変化があり、昭和十年には農業生産額の四倍になりました。

安城町は、昭和九年の「都市計画法」、十三年(一九三八)の「市街地建築物法」の適用を受け、新しい町づくりを模索し出した。名鉄バスの基本路線が整ったのもこのころです。また、山丸製糸の跡地に安城公園を造る計画ができたのもこのころです。

このように町が発展している様子が、この鳥瞰図には表れており、戦後の「田園都市」路線の先駆けを感じます。

昭和の名作シネマ上映会 月に一度、名作映画を歴博にてご覧ください。

場所 講座室 定員 80名 時間 10:00 ~ 当日参加可能

10/29 1955年
夏目漱石のころ
出演 森雅之、新珠三千代 時間 122分
夏目漱石の名作を監督・市川崑が忠実に映画化。鋭い心理描写が冴え、俳優たちの緻密な演技が印象。

11/26 1955年
人生とんぼ返り
出演 森繁久弥、山田五十鈴 時間 117分
ひたすら殺陣に打ち込む段平と、彼を支える髪結いの妻、そして段平を父と慕う娘の深い愛情を描いた名作。

12/24 1936年
河内山宗俊
出演 河原崎長十郎、原節子 時間 82分
市井に生きる人々の感情がいきいきと描かれた監督・山中貞雄の傑作。原節子が美しい。

1/21 1935年
丹下左膳余話 百萬両の壺
出演 大河内伝次郎、喜代三 時間 92分
日本映画史上屈指の傑作。軽妙な演出と大河内伝次郎の魅力が素晴らしい。

2/25 1965年
北国の街
出演 舟木一夫、和泉雅子 時間 92分
新潟県十日町。ここで絹の手織の伝統を守る職人の息子・海彦はある日、雪子という女子高生に恋をする。

3/18 1960年
大草原の渡り鳥
出演 小林旭、浅丘ルリ子、宍戸錠 時間 84分
マイトガイ小林旭とエースの錠こと宍戸錠の名コンビによる「渡り鳥」シリーズ最高傑作。